

平成21年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	放課後学習チューター事業				開始年度	平成15年度 町単独事業開始 平成17年	
基本目標	学校教育の充実				終了年度		
担当課(局)	教育総務課	担当係	教育総務係	記入者	濱本 生代	評価者	永友 吉人
20年度決算	256	千円	21年度予算	576	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
20年度人件費	216 千円		21年度人件費	218 千円		事業従事者数	0.03 人 0.03 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	児童の学習上のつまづきの解消や学習意欲の向上を図るとともに、南九州大学教育課程専攻学生の将来の教員としての資質、能力の向上につなげる。
事業の内容	小学校4年生以上で事業への参加を希望する児童を対象に、東西小学校へ週2回(東小3・4年生金曜、5・6年生水曜、西小3・4年生月曜、5・6年生水曜)、1時間チューターを派遣し学習支援を行う。

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 参加児童数	学習上のつまづきを解消し、学習意欲の向上を図ることができた。
	2 参加チューター数	教職課程専攻学生の教員としての資質、能力の向上を図ることができた。
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 実施回数	小学校の夏季・冬季休業期間及び大学の長期休業期間中を除き、可能な限り学習の機会を作った。
	2 チューター派遣数	参加児童数に応じ、派遣するチューター数を調整し、きめ細かな指導を行った。

◎達成状況

指標名		単位	19年度	20年度	21年度	
成果指標	参加児童数	目標値			42	
		実績値	人	135	148	
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
	参加チューター数	目標値	人	27	30	15
		実績値		37	25	
		達成率	%	137.0%	83.3%	
活動指標	実施回数	目標値	回	104	90	22
		実績値		72	62	
		達成率	%	69.2%	68.9%	
	チューター派遣数	目標値	人	1,158	600	220
		実績値		502	306	
		達成率	%	43.4%	51.0%	

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	町が行うことで、家庭環境に起因することなく等しく学習支援を受けることができる環境が作られる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	参加児童の感想から、学習上のつまづきの解消や、学習意欲の向上が図られていることが分かる。 チューターの実施記録簿からも、児童への指導の難しさや、それを克服したときの達成感が感じられる。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	学指導要領の改訂により授業時数が増加したことで、昨年まで実施していた4年生の実施ができない状況にある。 学習支援を南九州大学生以外に広げることで、対象児童を増やすことはできるが当初の目的とのずれが生じる。 経費は人件費及び保険料だけであり、これ以上の削減は難しい。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	事業そのものを見直し、チューターを南九州大学の学生に限らなければ協働の可能性はある。

事務事業名	放課後学習チューター事業	担当課(局)	教育総務課
-------	--------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	派遣側の南九州大学、受入側の東西小学校校長からも好評であり、児童の状況も安定していて目的にかなった事業と認められる。南九州大学の移転に伴い、同大学からの派遣は平成22年度が最後と思われるので、今後、目的の一つである力不足の児童に対する放課後活用の面から事業を見直す必要があると思われる。	今後の方向性				
			拡充				
			現状維持			○	
			縮小				
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎学校長の評価は高いということなので、23年度以降をどうするのか、検討してもらいたい。
	コスト	現状維持	